新刊紹介

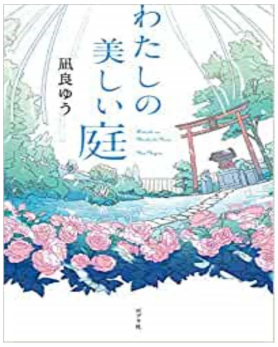
＊上段の三冊が
今年度課題図書です

被爆者の声を、そして見た光景を、美術を学ぶ高校生が絵にして記録する「次世代と描く原爆の絵」プロジェクト。平和な広島で今を生きる高校生たちが戦争や原爆を見つめなおす姿が描かれます。

「頼んでまでして、なんで仕事しなきゃなんないの？しかもタダで」中学二年・斗羽風汰が職場体験先に選んだのは、保育園だった。「子どもと遊んでりゃいいってこと？ありかも。」本当に大丈夫？

アフガニスタン難民のサミと祖父の生きる術であり、心の拠り所だった伝統楽器ルバーブが奪われた！買い戻すには一か月以内に七百ドルが必要だ。サミは友だちの助けを借りて自分の持ち物で物々交換を始める。希望と友情の物語。

その木に祈れば、願いが叶うと言われているクスノキ。その番人を任された青年と、クスノキのもとへ祈念に訪れる人々の織りなす物語。



血はつながっていない二人での生活。そのマンションの屋上には“いろんなもの”が心に絡んでしまった人がやってくる「屋上神社」がある。“生きづらさ”を抱えた人たちと、「わたし」の物語。

残念ながら、来年度に延期されているオリンピック・パラリンピック。そんな今だからこそ、なぜオリンピックが「平和の祭典」と呼ばれるのか、この本を読んで考えてみませんか？